

第2回地域部会の開催報告

1. 実施概要

(1)実施概要

- 実施日時：平成24年2月23日(木)
9:30～12:30
- 会場：豊田市産業文化センター大会議室
- 参加者：88名（事務局含まず）
- 傍聴者：7名

(2)内容

1. 開会
2. 事務所長あいさつ
3. これまでの検討経緯と地域部会の進め方について
4. 山・川・海の市民提案について
5. 部会別討議
 - ・市民提案への意見・質問
 - ・行政や関係団体が協力できること
 - ・今後の地域部会の取り組み方針
 - ・他の地域と連携できること
6. 各部会の討議発表
7. 閉会



守安所長あいさつ



会場風景



部会別討議（山部会）



部会別討議（川部会）



部会別討議（海部会）



討議発表（川部会）

(3)参加者出欠

(所属は五十音順、敬称略、●は参加部会を示す。)

	所 属	役 職	氏 名	山	川	海	出欠
個人	豊田市 在住		稲垣 隆司	○	○	○	
	豊田市 在住		小川 明	○			
	岡崎市 在住		畔柳 剛	○	○		
	刈谷市 在住		篠原 敏典		●	○	◎
	岡崎市 在住		菅原 正		●		◎
	西尾市 在住		鈴木 陽子			●	◎
	西尾市 在住		田中 一弘		○		
	豊田市 在住		丹羽 八十	○	●		◎
	西尾市 在住		長谷 輝夫		○		
岡崎市 在住		本多 秀行		○	○		
市民団体	BIO de BIO	代表理事	黒田 武儀	●			◎
	アド清流愛護会				○		
	コモ・スクエア	担当	鈴木 啓佑		○		
	愛知・川の会	会長	本守 真人	○	●	○	◎
	伊勢・三河湾流域ネットワーク	世話人	松井 賢子	●	○	○	◎
	奥矢作森林塾	理事長	大島 光利	●			◎
	乙川を美しくする会	会長	杉田 叔信		●		◎
		事務局	鳴戸 正弘		●		◎
	上矢作ダム問題連絡協議会			○			
	上矢作町自治連合会			○			
	加茂川を美しくする会				○		
	中部森林開発研究会	事務局	丹羽 庸介	●			◎
	鳥川ホタル保存会	会長	今泉 清		●		◎
	豊田市自然愛護協会	会長	光岡 金光		●		◎
	西三河野鳥の会	事務局	高橋 伸夫	○	○	●	◎
	早川をよみがえらせる会				○		
	三河湾浄化市民塾					○	
	水と緑を守る会・岡崎	代表	沖 章枝	●			◎
	森を再生する会			○			
	冨下川を美しくする会	事務局	伊奈 浩		●		◎
	矢作川「川会議」	代表	碓 さくら		●		◎
	矢作川学校	事務局(矢作川研究所 事務局長)	内田 良平		●		◎
	矢作川環境技術研究会	会長代理	田中 孝彦		●		◎
		事務局事務担当	野田 賢司		●		◎
	矢作川源流の森ねば			○			
	矢作川森林塾	理事長	碓 信夫		●		◎
	矢作川水系森林ボランティア協議会	副代表	稲垣 久義	●			◎
	矢作川水族館	館長	阿部 夏丸		●		◎
	矢作川治水史研究会	代表幹事	小澤 祐治		●		◎
		幹事	杉浦 宏		●		◎
	矢作川天然アユ調査会	会長(矢作川研究所 副所長)	宮田 昌和		●	○	◎
		副会長	新見 克也		●		◎
		事務局	酒井 博嗣		●		◎
矢作水源フォレストランド協議会			○				
矢作古川を美しくする会				○			
関係団体	根羽村森林組合	副参事	今村 豊	●			◎
		森林整備課長	藤城 秀行	●			◎
	恵南森林組合			○			
	豊田森林組合	技師	原田 勝行	●			◎
	岡崎森林組合	代表理事組合長	眞木 宏哉	●			◎
	矢作川水系漁業協同組合連合会(矢作川漁業協同組合)			○	○	○	
	愛知県漁業協同組合連合会西三支部(西三河漁業協同組合)	組合長	水野 和彦			●	◎
	明治用水土地改良区			○	○		
	豊田土地改良区				○		
	矢作北部土地改良区連合				○		
	矢作南部土地改良区連合	事務局	村上 みゆき		○		
	矢作川沿岸土地改良区連合				○		
	中部電力(株) 岡崎支店	用地部 不動産管理課長	杉山 竜介		●		◎
		技術部 土木建築課長 代行	藤澤 勝三		●		◎
	矢作川水源基金	事務局長	杉村 良行	○			
矢作川沿岸水質保全対策協議会	事務局長	天野 博			●	◎	
	係長	植村 友裕		●		◎	
学識経験者	名古屋大学大学院工学研究科	教授	辻本 哲郎	○	○	○	◎
	東京大学演習林生態水文学研究所	所長	蔵治 光一郎	●			◎
	鳥取大学地域学部	非常勤講師	丹羽 健司	●			◎
	愛知工業大学工学部都市環境学科	教授	内田 臣一		●		◎
	大同大学工学部都市環境デザイン学科	准教授	鷺見 哲也		●		◎
	豊橋技術科学大学建設工学系	教授	青木 伸一			●	◎
	名城大学大学院総合学術研究科	特任教授	鈴木 輝明			●	◎
	豊田市矢作川研究所	主任研究員	洲崎 燈子	●			◎
			山本 敏哉		●		◎
			石田 基雄			●	◎
愛知県水産試験場	副場長	宮川 宗記		●		◎	
愛知県水産試験場内水面漁業研究所	所長			●		◎	

	所 属	役 職	氏 名	山	川	海	出欠
行政	平谷村	産業建設課	課長	村松 啓伸	●		◎
	根羽村	振興課	課長	小木曾 秀美	●		◎
	恵那市	建設部 建設課			○		
	瑞浪市	建設水道部 土木課	課長	木村 伸哉	○		
		建設水道部 土木課	課長補佐	日比野 茂雄	○		
	設楽町	副町長		原田 理	●		◎
	新城市	産業・立地部	森林課参事	半田守利	●		◎
		建設部	部長	前沢 博則	●		◎
	豊田市	環境部 環境政策課	副主幹	酒井 斉	●		◎
		産業部	専門監兼森林課長	原田 裕保	●		◎
		建設部	道路建設担当専門監	伊藤 昌明		●	◎
		建設部 河川課	課長	八木 重善		●	◎
	岡崎市	環境部 環境保全課	課長	塩沢 卓也		●	◎
		経済振興部 林務課	振興班 主任主査	権田 幸雄	●		◎
		土木建設部	次長 兼 河川課長	野本 昌弘		●	◎
		土木建設部 河川課	総務班 副主幹	岩堀 宏昭	●		◎
	安城市	建設部 土木課	課長	長坂 辰美		●	◎
		建設部 土木課	課長補佐	市川 公清		●	◎
		都市整備部 公園緑地課				○	
	幸田町	建設部 土木課				○	
	みよし市	経済建設部 農政商工課				○	
	刈谷市	建設部 雨水対策課				○	
	知立市	建設部 土木課				○	
	高浜市	都市整備グループ	主査	磯村 正義			○
	東浦町	建設部	部長	鈴木 鑑一		○	
		土木課	課長補佐	久米 正彦		○	
	半田市	建設部 土木課				○	
	武豊町	産業建設部 土木課					○
	碧南市	建設部	部長	稲垣 生夫			● ◎
		建設部 土木課	課長	中村 正典			● ◎
	西尾市	建設部	部長	早川 英樹		○	
		建設部 河川港湾課	課長	杉山 彦二		●	◎
			主幹	多田 光洋			● ◎
			主任主査	河原 成治			● ◎
	長野県	危機管理部 危機管理防災課			○		
		環境部 水大気環境課			○		
		農政部 農地整備課			○		
		林務部 森林政策課			○		
		建設部 河川課	計画調査係 主査	細川 盛樹	●		◎
	岐阜県	危機管理部 防災課			○		
		環境生活部 環境管理課			○		
		農政部 農地整備課			○		
		林政部 森林整備課			○		
		県土整備部 河川課	主任技師	角藤 祐紀	○		
		都市建設部 下水道課			○		
愛知県	地域振興部 土地水資源課	主任	中島 誠公		●	◎	
	防災局 災害対策課			○	○		
	環境部 水地盤環境課	課長補佐	戸澤 範行			○	
	環境部 水地盤環境課	主任	柴田 栄作		●	◎	
	農林水産部 農林政策課	主査	村田 典之	●		◎	
	農林水産部 水産課	主査	玉置 真一			● ◎	
	農林水産部 農地計画課	主査	廣野 貴司		●	◎	
	建設部 河川課	主任主査	岡島 充典		●	◎	
		主査	清水 雅子		●	◎	
	企業庁水道部 水道計画課	主任主査	杉本 靖文		●	◎	
	企業庁水道部 水道計画課	主査	菅沼 保		●	◎	
	豊田加茂農林水産事務所 林務課	課長	近藤 和幸	●		◎	
	豊田加茂建設事務所 河川整備課	課長補佐	高橋 好夫		●	◎	
行政	林野庁 中部森林管理局 名古屋事務所	副所長	廣田 祐一	●		◎	
	農林水産省 東海農政局	整備部 設計課	事業調整室長	岡本 進		● ◎	
		農村計画部 農村振興課	水利調整係長	村瀬 義典		● ◎	
	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課	課長補佐	阿久津 博志			● ◎	
	国土交通省 中部地方整備局	企画部 広域計画課	課長	安藤 元治		● ◎	
	建設部 都市整備課	課長補佐	小池 仁	●		◎	
	河川部 河川計画課	建設専門官	渡邊 伸也		●	◎	
国土交通省 三河港湾事務所	工務課	課長	神谷 一弘			● ◎	
	企画調整課	地域調整係長	松永 勝幸			● ◎	
事務局	矢作ダム管理所	所長	相田 達也	●		◎	
		建設専門官	岡村 修		●	◎	
		管理係長	宮本 幸典			● ◎	
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	所長	守安 邦弘			● ◎	
		副所長	倉島 佐貴夫			● ◎	
		副所長	新高 庸介		●	◎	
		副所長	山住 和恵	●		◎	
		工務課長	包原 勝則			● ◎	
		管理課長	長嶋 佳孝		●	◎	
		流水調整課長	松山 康忠	●		◎	
		調査課長	武田 真吾		●	◎	
		岡崎出張所長	小林 智		●	◎	
		安城出張所長	谷村 光一			○ ◎	
		調査課専門職	宇野 利幸			● ◎	
		調査課調査係長	杉野 浩文	●		◎	
	管理課管理係長	原田 安久		●	◎		
合 計 (部会重複あり)				61	80	34	103
【参加人数】 合 計 (部会重複あり)				31	51	21	

計 103 名 (事務局含む)

■山部会 参加者

	所 属		役 職	氏 名
市民団体	BIO de BIO		代表理事	黒田 武儀
	伊勢・三河湾流域ネットワーク		世話人	松井 賢子
	奥矢作森林塾		理事長	大島 光利
	中部森林開発研究会		事務局	丹羽 庸介
	水と緑を守る会・岡崎		代表	沖 章枝
	矢作川水系森林ボランティア協議会		副代表	稲垣 久義
関係団体	根羽村森林組合		副参事	今村 豊
			森林整備課長	藤城 秀行
	豊田森林組合		技師	原田 勝行
	岡崎森林組合		代表理事組合長	眞木 宏哉
学識経験者	東京大学演習林生態水文学研究所		所長	蔵治 光一郎
	鳥取大学地域学部		非常勤講師	丹羽 健司
	豊田市矢作川研究所		主任研究員	洲崎 燈子
行政	平谷村	産業建設課	課長	村松 啓伸
	根羽村	振興課	課長	小木曾 秀美
	設楽町	副町長		原田 理
	新城市	産業・立地部	森林課参事	半田守利
	新城市	建設部	部長	前沢 博則
	豊田市	環境部 環境政策課	副主幹	酒井 斉
		産業部	専門監兼森林課長	原田 裕保
	岡崎市	経済振興部 林務課	振興班 主任主査	権田 幸雄
		土木建設部 河川課	総務班 副主幹	岩堀 宏昭
	長野県	建設部 河川課	計画調査係 主査	細川 盛樹
	愛知県	農林水産部 農林政策課	主査	村田 典之
		豊田加茂農林水産事務所 林務課	課長	近藤 和幸
	林野庁 中部森林管理局 名古屋事務所		副所長	廣田 祐一
国土交通省 中部地方整備局	建政部 都市整備課	課長補佐	小池 仁	
事務局	矢作ダム管理所		所長	梶田 達也
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所		副所長	山住 和恵
			流水調整課長	松山 康忠
			調査課調査係長	杉野 浩文

計 31 名

■川部会 参加者

	所 属	役 職	氏 名	
個人	刈谷市 在住		篠原 敏典	
	岡崎市 在住		菅原 正	
	豊田市 在住		丹羽 八十	
市民団体	愛知・川の会	会長	本守 真人	
	乙川を美しくする会	会長	杉田 叔信	
		事務局	鳴戸 正弘	
	鳥川ホタル保存会	会長	今泉 清	
	豊田市自然愛護協会	会長	光岡 金光	
	家下川を美しくする会	事務局	伊奈 浩	
	矢作川「川会議」	代表	裕 さくら	
	矢作川学校	事務局(矢作川研究所 事務局長)	内田 良平	
	矢作川環境技術研究会	会長代理	田中 孝彦	
		事務局事務担当	野田 賢司	
	矢作川森林塾	理事長	裕 信夫	
	矢作川水族館	館長	阿部 夏丸	
	矢作川治水史研究会	代表幹事	小澤 祐治	
幹事		杉浦 宏		
矢作川天然アユ調査会	会長(矢作川研究所 副所長)	宮田 昌和		
	副会長	新見 克也		
	事務局	酒井 博嗣		
関係団体	中部電力(株) 岡崎支店	用地部 不動産管理課長	杉山 竜介	
		技術部 土木建築課長 代行	藤澤 勝三	
	矢作川沿岸水質保全対策協議会	係長	植村 友裕	
学識経験者	愛知工業大学工学部都市環境学科	教授	内田 臣一	
	大同大学工学部都市環境デザイン学科	准教授	鷲見 哲也	
	豊田市矢作川研究所		山本 敏哉	
	愛知県水産試験場内水面漁業研究所	所長	宮川 宗記	
行政	豊田市	建設部	道路建設担当専門監	伊藤 昌明
		建設部 河川課	課長	八木 重善
	岡崎市	環境部 環境保全課	課長	塩沢 卓也
		土木建設部	次長 兼 河川課長	野本 昌弘
	安城市	建設部 土木課	課長	長坂 辰美
		建設部 土木課	課長補佐	市川 公清
	西尾市	建設部 河川港湾課	課長	杉山 彦二
	愛知県	地域振興部 土地水資源課	主任	中島 誠公
		環境部 水地盤環境課	主任	柴田 栄作
		農林水産部 農地計画課	主査	廣野 貴司
		建設部 河川課	主任主査	岡島 充典
		建設部 河川課	主査	清水 雅子
		企業庁水道部 水道計画課	主任主査	杉本 靖文
		企業庁水道部 水道計画課	主査	菅沼 保
	豊田加茂建設事務所 河川整備課	課長補佐	高橋 好夫	
	農林水産省 東海農政局	整備部 設計課	事業調整室長	岡本 進
		農村計画部 農村振興課	水利調整係長	村瀬 義典
国土交通省 中部地方整備局	河川部 河川計画課	建設専門官	渡邊 伸也	
事務局	矢作ダム管理所	建設専門官	岡村 修	
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所	副所長	新高 庸介	
		管理課長	長嶋 佳孝	
		調査課長	武田 真吾	
		岡崎出張所長	小林 智	
	管理課管理係長	原田 安久		

計 51名

■海部会 参加者

	所 属		役 職	氏 名
個人	西尾市 在住			鈴木 陽子
団 体 民	西三河野鳥の会		事務局	高橋 伸夫
関 係 団 体	愛知県漁業協同組合連合会西三支部(西三河漁業協同組合)		組合長	水野 和彦
	矢作川沿岸水質保全対策協議会		事務局長	天野 博
学 識 経 験 者	豊橋技術科学大学建設工学系		教授	青木 伸一
	名城大学大学院総合学術研究科		特任教授	鈴木 輝明
	愛知県水産試験場		副場長	石田 基雄
行 政	碧南市	建設部	部長	稲垣 生夫
		建設部 土木課	課長	中村 正典
	西尾市	建設部 河川港湾課	主幹	多田 光洋
		建設部 河川港湾課	主任主査	河原 成治
	愛知県	農林水産部 水産課	主査	玉置 真一
	環境省 中部地方環境事務所	環境対策課	課長補佐	阿久津 博志
	国土交通省 中部地方整備局	企画部 広域計画課	課長	安藤 元治
	国土交通省 三河港湾事務所	工務課	課長	神谷 一弘
企画調整課		地域調整係長	松永 勝幸	
事 務 局	矢作ダム管理所		管理係長	宮本 幸典
	国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所		所長	守安 邦弘
			副所長	倉島 佐貴夫
			工務課長	包原 勝則
		調査課専門職	宇野 利幸	

計 21名

2. 主な会議内容

「第2回地域部会」では、主に以下の内容が協議、報告された。

- これまでの検討経緯について報告し、参加者間で共有化した。

- 各部会で検討する課題について市民会議より提案があり、以下のようにすることを確認した(具体的な提案内容については、第2回地域部会資料の資料2、3、4の市民提案を参照のこと)。
 - 山：「人と地域の問題」と「森の問題」の2つの課題を検討しながら、流域のみんながつながるような話し合いを行っていくことにした。
 - 川：流域全体に関わる課題として、上下流問題と地先の課題について扱うこととした。上下流問題は具体的な検討範囲として、本川モデル地区として越戸ダム～鶴の首橋付近を設定、支川モデル地区として家下川流域を対象として検討する。一方、地先の課題として、本川モデル地区内の豊田スタジアム前の検討と合わせて、多くある流域圏内の課題箇所を順次現地調査を行い、解決につなげる事とした。
 - 海：海地域では活動の仲間を増やしていくため、4つの市民提案である干潟を中心とした取り組みの「清掃活動を通じたごみ・流木調査、干潟の生き物調査、干潟・水辺のアクセス向上、干潟・ヨシ再生」を海の民とも連携し実施していく。

- 各部会の今後の進め方として、以下のようにすることを確認した。
 - 山：
 - ・ワーキンググループ（WG）を立ち上げ、月1回程度開催すること
 - ・WGは、根羽村から岡崎まで場所を変えながら行っていくこと
 - ・開催案内はメールリストを活用すること
 - ・第1回WGの中で誰が何に関わっていくか話し合うこと
 - 川：
 - ・モデル地区毎にワーキンググループ（WG）を立ち上げ、月1回程度開催すること
 - ・WGは、現地見学と話し合いをセットにするなど、議論の収束に向けた工夫をすること
 - ・既に市町や県、関係団体が関与している協議会等も多数あるので、今後の連携を視野に入れて整理すること
 - ・WGの企画は、市民企画会議がイニシアチブをとってやっていくことを基本とするが、関係団体の方々も積極的に参加すること
 - 海：
 - ・干潟・水辺のゴミ調査により流域や湾との関わりを調べていくこと
 - ・連携できるイベントを活用しながら、子ども達が楽しく参加してもらえる干潟の生もの調査について検討すること
 - ・市民の海との距離を縮めることを目的とした、干潟・水辺のアクセス向上について、海の民との連携を深め検討をすること
 - ・市民だけでは解決できない大きな課題（干潟・ヨシ再生とも関連する土砂の問題）については、説明会などへ参加することで市民も学び、議論を深めていくこと

3. 矢作川流域圏懇談会 第2回地域部会 議事概要

日時：平成24年2月23日(金) 9:30 ~ 12:30

場所：豊田市産業文化センター大会議室

1. 開会 (司会:国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所 副所長 新高庸介)
2. 事務所長あいさつ (国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所長 守安邦弘)
3. これまでの検討経緯と地域部会の進め方について
4. 山・川・海の市民提案について

(休 憩)

5. 部会別討議

- ・市民提案への意見・質問
- ・行政や関係団体が協力できること
- ・今後の地域部会の取り組み方針
- ・他の地域と連携できること

(1) 山部会討議内容

●議題1：市民提案への意見・質問タイム

- ・もうかるというもくろみと国策の話、素人山主は林家なのかという疑問、現在は植林を行っていないので皆伐はないなど、違和感を覚える箇所がある。どのような意図でこのように書いたのかを聞きたい。(岡崎森林組合 真木)
 - ▶ 市民の議論の結果をA3、1枚で整理したため、不足する部分があることは承知している。頂いた意見については、今後の議論の中で話し合いたいと思う。できれば、もっと全体的な視点から意見を頂きたい。(蔵治)
- ・流域圏での人の動きの中では新しい運動がでてきた。資料2のp4~7に示したものであり、それらを事例集として整理することを今回提案した。(稲垣)
- ・黒田さん、大島さん、それぞれの思いを聞きたい。(蔵治)
 - ▶ 真木さんから頂いたような意見をどんどん頂きたい。それによって、市民提案をもっと深いものにしたい。また、市民会議が市民企画会議を生み出したように、地域部会でも市民企画会議のように自主的にしようということを望んでいる。(黒田)
 - ▶ 未だに地域部会がどこに向かうのかが理解できていない。資料に書いてある内容については、大きな事業であり、そのままでは進まないと思うので、まず自分の住んでいる地域から地元の自治体と共同事業をしていきたい。(大島)
- ・上流は下流のことを、下流は上流のことを思いやらなければならない。根羽村は林業立村であり、もっと下流の人に源流の木をつかってほしい。行政に対しては、木を使ってもらえるようなシステムづくりをしてほしい。また、下流の人に来てもらい木育をしたい。(根羽村森林組合 今村)
- ・市民提案では、人と地域の問題と森の問題の2つの切り口を提案し、人と地域の問題では、解決手法の例として、「事例集」を通じて情報発信をし、「上下流のビジネスサ

イクル」につなげたい。森の問題については、「ガイドライン」をつくり実践していききたい。(洲崎)

- ・ 洲崎さんの説明にあったように、まずは「人と地域の問題」と「森の問題」の2つの切り口で行っていくことでよいか。(蔵治)
- ・ 話を聞くと矢作川本川だけのことのように聞こえる。矢作川には、巴川や乙川があり、このような支川も合わせて流域全体で検討したい。(水と緑を守る会・岡崎 沖)
 - ▶ 同じような大切さで扱っていききたい。(蔵治)
- ・ それでは、この2つの切り口でよいか。(蔵治)
(異議なし)

●議題2：市民提案に対して、行政、関係団体が連携できること

- ・ 次に、先程説明した解決手法については、あくまで例示であり、何も決まっていない。これについて、行政や関係団体でできることなど意見がないか。(蔵治)
- ・ 2つの問題は古くから言われている問題である。古くは、矢作川流域開発研究会から矢流振でも検討してきており、現在では、矢作川水源基金で検討していることから、この組織を何とか活用できないか。また、流域活性化センターが木材を通して活性化していくことを目的としているが、何もしていないのが現状。(豊田市 原田)
- ・ 矢作川水源基金は、地域部会のメンバーに入っているが、今日は参加していないことが残念である。県の流域活性化センターに専従の職員はいるのか。(蔵治)
 - ▶ 県にはいない。(豊田市 原田)
 - ▶ 当初は、補助金もついていたが現在は予算がついていない。(愛知県 村田)
- ・ 組織があっても魂がないと形骸化している例だと思う。全国の水源基金で矢作川と隣の豊川だけが、水源の森林への支援を行っている。(蔵治)
- ・ 機能していない組織はほうっておき、できるものをつくれればいいと思う。木の駅プロジェクトと森の健康診断を行っていききたい。大きな範囲ではなく、中学校区くらいで、どんな資源があるか、今後、森はどうなるのか、商店はどうなるのかを考えていけばいいと思う。そのような先行モデルをつくったらどうか。(丹羽)
- ・ 2つの市民提案とも方向性はいいと思う。ただし、ガイドラインについては、どこまで行政が責任をもつのが難しい。まずは、事例集づくりを行って流域住民の意識を高めてから、森林のガイドラインをつくるのであれば関わりやすい。(愛知県 村田)
- ・ 一般市民の流域一体への意識は低いということか。(蔵治)
 - ▶ そのように認識している。(愛知県 村田)
- ・ 森林のガイドラインはつくってほしい。このようなものをつくってほしいという考えはある。事例集については、どのように広めていくかがポイント。小中学生にも事例集をPRしたい。(根羽村森林組合 今村)
- ・ 豊川流域では、東三河広域連合として日本一の圏域づくりを進めているが、行政レベルでは、決めたことができないのが現状。矢作川において市民目線でやれることを考えると環境教育の取組みではないか。住民の意識を高めないとビジネスサイクルの取組みにはつながらないのではないか。まずは、モデルをつくって反響を聞いたらどう

か。(設楽町 原田)

- ・ 根羽の家をPRする場合は、長野県のものを愛知県はPRしない。そこをどうするか。誰が事務局をしたらいいのかを悩んでいる。また、矢流研の時代に定住圏構想が提起されており、このような県を越えた組織づくりができないか。(豊田市 原田)
 - ▶ 矢作川流域圏では、県域をこえた広域連携に向けて、国が動いたことが大きい。今後とも事務局は、豊橋河川事務所をお願いしてやっていったらどうか。(蔵治)
- ・ COOP愛知でも愛知県の本を住宅に使用するという動きがある。ここへの働きかけを行ったらどうか。(伊勢・三河湾流域ネットワーク 松井)

●議題3：今後の地域部会の取組み方針をとりまとめる

- ・ 「人と地域の問題」「森の問題」の検討チームが月1回集まって話し合いを行ったらどうかと思う。また、3～6ヶ月に1回地域部会で報告するイメージでどうか。集まる日にちは、土日がいいと思う。黒田さんはどう考えているか。(蔵治)
 - ▶ 120万人流域圏の共同体を母体としてどうするかを考えた場合、まず出発することが重要。自分たちで行うことは、自分たちで考えていくことが必要。丹羽さんが言うように小さな地域からはじめていくのがいいと思う。まずは、次回集まることが重要であり、その時に問題意識を持ち寄ったらどうか。(黒田)
- ・ 地域部会の開催とチームの話し合いの2つのどちらが月1回開催することがいいか。(蔵治)
 - ▶ 地域部会を月1回開催した方がよい。(黒田)
- ・ 流域の話となると他人事になってしまう。自分の近くでやりたいことをできればいいのではないか。流域再生調査では、活動団体にヒアリングをして活動票をつくった。活動の担い手にヒアリングするとそれがネットワークになる。調査主体の環境省からは、ヒアリングの際の出張費はだしてもらった。年間に2つくらいの団体に取材をして、それをみんなで参加しながら事例集としてまとめたらどうか。また、森のガイドラインについては、話し合うことにより、各地域で行うことが見えてくると思う。このような活動に関わる交通費程度は出してもらいたい。(丹羽)
- ・ 先程3～6ヶ月に1回地域部会を開催したらという話をしたが、規約では、年2回と規定されている。そのため、検討チームの話し合いをWGとして月1回くらい開催したらどうか。また、検討チームについて、2つ立ち上げた方がよいのか、まずは1つにした方がいいのか。(蔵治)
 - ▶ ゆくゆくは、別々に検討したらどうかと思うが、まずは、1つのWGをつくったらどうか。また、話し合いに参加できない人に対しては、山部会の有志で活用したメーリングリストをつくったらどうか。(洲崎)
- ・ まずは、これまで矢作川流域圏のメールを見た人はいるか。(蔵治)

(概ね7割の人が手を挙げた)
- ・ WGについては、有志の集まりを考えているが、行政や関係団体の方にも参加してもらえることが重要である。個人の資格でもいいから入ってもらえないか。入ってもらえる方は挙手してほしい。(蔵治)

(誰も手を挙げず)

- ・ 蔵治さんが一人でもすると言えば手を挙げてくれるのではないか。(黒田)
- ・ 少なくとも、これまでの山の有志のメンバーは入ってくれると信じている。毎回でなくても構わないが、有志のWGに参加してくれる人はいないか。

(10名弱、手を挙げた)

- ・ ありがとうございます。それでは、第1回WGの呼びかけをした中で何を議論したらいいのか。人と地域の問題と森の問題のどちらを先にするのかといったことも含めて意見を頂きたい。(蔵治)
- ・ 行政の方は、どうすれば事例集の作成に参加しやすくなるのか教えてほしい。(丹羽)
- ・ 行政の方がこのような会議では発言しにくいこともあると思うので、もっとくだけた場で話をしたらどうか。(蔵治)
- ・ WGについては、一箇所で行うのではなく、地区で持ち回りにしてもらったらどうか。(大島)
 - いいと思う。(蔵治)
- ・ 今日の話を受け、河川事務所としてどのように考えているか教えてほしい。(蔵治)
 - 流域圏一体化が動きだしている中で、今後、流域の行政をどう動かすか、自発的に取組みにのってこられるか、3年間でなんとか形をつくっていききたい。(山住副所長)
- ・ それでは、今の話し合いの結果については、丹羽さんに報告してもらおう。(蔵治)

以上

(2) 川部会討議内容

●議題1：市民提案への意見・質問タイム

- ・ 今回設定した課題の根拠について教えて頂きたい。市民や活動団体が川の課題に取り組む際、例えば清掃活動などに取り組むことが想定されるがそのような意見があったのか、教えて頂きたい。(株中部電力 杉山)
 - 川のもつ問題点は、上流・下流それぞれで異なっており、また複雑に絡み合っている。そのため清掃活動等を行えば課題解決につながるというような話ではないと、市民間の中でも共通認識ができあがり、そのうえでモデル地区を設定した経緯がある。(光岡)
 - 市民の側からは、各自が所属する団体で活動を一生懸命行っているが、川全体の環境を考えるとという面では、それぞれ立場や考え方が異なるのが実情。そのため、モデル地区を設けて、より広範に課題を考えられるような機会を作って、課題解決に向けて、まず取り組んでみることを考えた。(裕)
 - 市民の間でもそれぞれ考えられる課題を出して、モデル地区における課題設定を試みたが、それ以外の課題については必ずしも議論が尽くされているわけではない点を了承いただきたい。(阿部)
- ・ 家下川のもつ流域や維持流量、水源の有無など基本的な事項について把握していれば教えていただきたい。(安城市 市川)

- ▶ 家下川は基本的に水源はもたず、特に冬場は流量が大変少ない。(阿部)
- ▶ 家下川の支川となっている農業用水などは、土地改良区との関係で水量調整の余地はあるように思う。(阿部)
- ▶ 安城市内にある河川と特徴が類似していると理解した。安城市では河川の流量減少による生態系への影響など、家下川の取り組みと関連することがあると考えている。(安城市 市川)
- ・ 豊田市の水循環共働ビジョンに関連し、この取り組みを豊田市のみで終わらせず、例えば家下川や安城市など他自治体へ展開することなども考えられるのではないかと。(内田)
 - ▶ 当該ビジョンの策定は下水道課であるため、詳細については把握していない。(豊田市 八木)
 - ▶ 市民と係わり合いのある行政部局が複雑であることが解決に向けた取り組みとして、問題という面も根源にある。(鷺見)
- ・ 愛知県では水循環再生に関する取り組みを行っている。取り組みでは、県内を3つの地域に分類しており、その地域毎に、地域協議会を組織している。例えば、そのような組織と矢作川流域圏懇談会が連携することも考えられる。(愛知県 柴田)
 - ▶ 市民の側として、本日の地域部会でそのような意見をお聞きすることが市民の側としての参加目的の一つであり、幸いである。(裕)
- ・ 既に他の部会からも意見があったが、活動団体や行政が行っている活動など情報共有することが大切と考えている。(鷺見)
 - ▶ 維持流量に関連し、利水という面では、自治体以外にも明治用水や国の行政機関も大いに関係する。将来にわたって、そのような問題も考慮して考えていくべき。(安城市 市川)
 - ▶ ご指摘の通りである。河川の問題は、河川整備計画の計画期間内で扱う問題と、その期間を超えて扱う問題の2つの問題があることが考えられる。(鷺見)
- ・ 愛知県では、水質の改善に向けた活動も行っており、これまでに取り組んだ県内の河川では、一定の改善がみられた。そのような水質の改善に対し、市民の側にどのような実感があるかお聞きしたい。(愛知県 柴田)
 - ▶ 豊田市では小学校でそのような大変長期間にわたって取り組んでおり、市民の方々も関心が高い。(裕)
 - ▶ 釣り人という目線からは、河川の水質は確かにきれいになっているが、川底の状態や水量という面を考慮すると、河川の評価を水質の向上のみで行うことは、やや抵抗があることも事実。(新見)
 - ▶ 水がきれい汚いというのは、数字で示されるものだけではなく、川を見た人、川に訪れた人の実感によるものが大きい。また、その実感は、世代によって大きく異なっているという実情がある。(阿部)
- ・ 地先の課題と上下流問題とそれぞれ複雑に絡み合うことと思うが、矢作川の変化を捉えるという意味では、その河川形状の測定にあたりぜひレーザープロファイラーでデータをとっていただいて、データを入手蓄積して頂きたい。(小澤)

- ▶ 河川のモニタリングをしっかり行い、川の動態をみることは重要である。(鷺見)
- ▶ 現時点では、定期横断測量で把握することを考えているが、コストを比較して一番良い方法でモニタリングできる方法を考えたい。(新高)
- ・ データの蓄積という面では、家下川の流量に関するデータがないため、具体的な数値について、観測できるとよいと思う。(山本)
- ▶ 流量の観測などは、役所に対応いただければ一番よいが、観測にあたっては役所が観測する方法以外にも、学識経験者あるいは研究所をうまく活用して観測するような方法も考えられる。(鷺見)

●議題2：市民提案に対して、行政、関係団体が連携できること

- ・ 上下流問題のモデル地区の設定にあたっては、竜川合流点を境に上半分が県で、下半分が国の管理となっている。国の方々は、当懇談会の事務局をやられており、話が通じていると認識している。一方、県の方々はこのモデル地区の設定についてどのように考えているのか、あるいは、課題解決に向けた今後の取り組みについては、どのようなスタンスをお持ちか、お聞かせいただきたい。(新見)
- ▶ 県の側としても、気持ちとしては、一緒にがんばりたいと思っている。ただし、まだ不明な点もあり、懇談会設立からの関わりが薄かったことを反省している。(愛知県 岡島)
- ▶ 是非一緒にがんばっていき、関わりを深めていきたい。(新見)
- ▶ 県の方々は、最近、川の現地視察等にも参加していただくなどしており、そのようなスタンスに感謝している。(裕)
- ▶ 家下川についても、当初、取り組みをはじめていただいたのが県であった。当時から一生懸命やってくれたので、引き続きよろしくお願ひしたい。(阿部)
- ▶ 家下川については、県の出先事務所からも対応させて頂いていると聞いている。(岡島)

●議題3：今後の地域部会の取組み方針をとりまとめる

- ・ この懇談会が3年で1サイクルという点を考慮すると、来年度が三年目にあたる。そのため、全体会議が行われることが考えられるとともに、地域部会の開催時期も必然的に決まってくる。そのような観点で今後の地域部会の進め方についてご意見を頂きたい。(鷺見)
- ▶ 地域部会は必ずしも3部会が合同で開催される必要性はないという話もあるので、そのあたりも考慮して意見交換できるとよい。(裕)
- ▶ これまでは市民会議が主導で活動が行われてきたが、今後の理想をいえば、行政や関係団体の方々も入るかたちで進められるとよい。(鷺見)
- ・ 次回の地域部会までに、川部会として、どのような内容を議論して、進めていけるかが重要である。(鷺見)
- ▶ 川の上下流問題という面では、土砂の問題がある。これは河床や生物の問題にも関わるため大変重要なテーマであり、来年度、勉強会で扱うことを聞いている。(宮)

川)

- ▶ 流量の問題などは長期的に扱うべき問題であると思う。これは市民や市民団体がすぐに扱える問題ではないため、行政や学識経験者の方に知恵をお借りして進めることも重要だと思う。(砦)
- ▶ 維持流量の話などは、長期的に考える問題で、市民単位でみるとどこに問い合わせたらよいか不明な面が大きい。今後は、そのような課題解決にあたって、市民や市民団体の活動が行政や関係団体にとって、どのようなものであればより促進されるのか、可能な範囲で意見交換などできればよい。(光岡)
- 川部会として具体的な企画を考えて進めていくという面では、市民企画会議が主導していくと考えてよいか。あるいは、関係団体などもその場に入って一緒に進めていただけると考えてよいか。(鷺見)
 - ▶ 関係団体の方には、ぜひおいでいただきたい。(光岡)
 - ▶ 市民企画会議という名称のままだと市民しか参加できないような印象をうける。(鷺見)
 - ▶ 今まで多くの議論に参加してきたが、例えば勉強会のようなフィールドワーク的な活動と、会議のような議論の場をセットにして進めることがよいと思う。さらに、川部会で言えば、越戸ダムから鶴の首までの上下流問題を扱うグループなど、モデル地区毎にワーキンググループを設けて進めるとよい。特に、開催にあたっては、市民の方も参加しやすいように、休みの日に設けるとよいと思う。(内田)
- 地域部会を開催するタイミングについて (鷺見)
 - ▶ ある程度現地見学やワーキングを進めて、一定の議論をしたうえで開催すると良い。例えば、秋ごろに開催することが考えられる。(小澤)
 - ▶ 今までは現場で何かやる際には、市民・市民団体の方々が多かったが、今後は関係する方々にも出席いただきたい。(砦)
 - ▶ ワーキングに直接関与していただきたい団体には、その都度指名させていただく可能性があるということを含めて、そのようなかたちで進めていければよいと思う。

以上

(3) 海部会討議内容

- 前回は、3つの大きな課題（土砂、水、ゴミ）上流と下流をつなぐ問題を提案し、その方向性で市民の方に議論して頂いて、4つの提案を頂いた。いずれも市民だけではできない課題であるので、上手く進められるような方向で議論していきたい。(青木)

●議題1：ゴミ・流木調査について

- 先ほどの提案への質問等はないか。まず、ゴミ、流木調査についてはいかがか。(青木)
- 実際の状況はどのような状況であるか？ (青木)
 - ▶ 台風等の大雨の時は、10～15日間支障をきたす。その後は、沖へ自然と流れていく。拾える流木は拾っているが、海中に浮遊している流木が集められないのでや

っかいである。(水野組合長)

- ・ 木の種類はどんなものがあるか？ (高橋)
 - スギやヒノキ、雑木などと思う。(水野組合長)

- ・ 流木は、まず海に浮いていて漁業者に邪魔な状況にあるとのことだが、その後、沈んだり集まったりがどこらあたりへ集まるのか把握しているか？ (石田)
 - どこかは不明。沈んでいると思われるが、網などに引っかかる被害もあまり聞かない。(水野組合長)

- ・ 一色干潟では、打ち上げられている流木があまり見られないがなぜか。(石田)
 - 拾えるものは漁民で回収するが、拾えないテトラの中の大きい流木も大潮のときなどに流れていく傾向にある。(水野組合長)

- ・ ゴミ関係の対応をされている行政関係者の取組みはいかがか。(青木)
 - 台風の後には流木が非常に多かった。港湾内は、舟を守るためにも漁業者で清掃されているが、港湾外については、要望があれば処理の協力をしている。(西尾市)
 - 碧南側では、矢作川に関係するところでは大浜漁業がウナギシラス漁を特別採捕を実施されており、行政としてもクリーン作戦としてバックアップしている。2月14日に実施したクリーン作戦では、流木は少なかったが、一般ゴミは非常に多い。(碧南市)

- ・ 港湾に関係する部分は、誰に聞けばよいか？ (青木)
 - かつては、愛知県が清掃船を持っていたが今まだあるか不明。港湾外の一般海域では、中部地整が伊勢湾、三河湾で清掃船(白龍)を1隻持っており、大きな流木等の回収など毎日清掃を実施している。三河湾は、外海への流出が早いので海域の清掃活動は、伊勢湾側が主力である。(港湾)
 - 三河湾内において、本当は流木に困っている状況があるのであれば、名古屋港湾等への情報伝達により改善できる可能性もある。(港湾)

- ・ 専門的な話であるが、短波レーダーで流れを把握しているが、どこにゴミが流れ着きやすいか等の情報をオープンにできないか。(鈴木)
 - 短波レーダーは、白龍(清掃船)に搭載されたシステムで、潮目がどこにあるかを把握し、それに基づきゴミが何処に集まるかを予測し、清掃活動に役立てている。(港湾)

- ・ 湾内に貯まりやすいのかどうなのか現状が不明なことを、将来的にこうした技術を使っていくことも可能なのではないか。短波レーダーのデータを公表(発信)したらどうか。(鈴木)

- ・ ここでの議論は、矢作川の流域圏に接する海域として限定しているが、ゴミは一旦流れてしまうと三河湾全体へとつながる問題であり、地域が限定される山部会・川部会と異なる点である。(鈴木)

- ・ これまでの話では、矢作川の河口についてはゴミについてはあまり大きな問題ないように思われているが、本当は困っている三河湾沿岸の自治体等があれば、範囲を限定せずに三河湾浄化に関連する組織との連携も図ることが必要ではないかと思う。(鈴木)
- ・ スナメリ、海ガメがビニールを食べて死んでしまう。ビニールゴミなど自然生物に影響を与えるゴミの問題を考える必要がある。こうした自然への配慮が必要。(矢水協 天野)
- ・ 土砂の問題同様、ゴミの問題も湾全体と大きな問題のようであるが、より市民がかかわりやすい調査などの活動で連携していけることはないだろうか。(青木)
- ・ 全てに係わる話であるが、三河湾の問題は大きくなかなか市民に係われる問題がない。また、係わらなければ特に係わる必要がなく、関係が希薄になっている状況もある。しかしながら、様々な海の問題の解決に向けては、様々な人の活動で解決していくべきで、まずは、関わりを厚くし、乖離している部分を近づけていくと漁業者にもメリットが生まれ、市民にも楽しみ利益を生める市民活動を発展させていくと良いと思う。(石田)
 - 市民が係わりあっていくことは大切なことと思う。(鈴木陽子さん)
- ・ 上流域に実家があり、山を知らない山主の一人である。自分の山が崩れても、自分の山だけの問題で困ると思うだけで、下流域への影響まで意識が及ばない。本当は山が崩れると下流域へも影響がでるということをこうした会議で情報交換をしていくことが重要で、ゴミからの流域を見ようという提案は非常に良いと思う。(安藤)

●議題2：干潟の生きもの観察

- ・ 日本全国、漁業後継者が不足し、浜をメンテナンスする人が不足している。環境生態系活動に係わる助成制度を用いて藻場再生、干潟の維持等に取り組む活動組織が全国に240ある。これらの取組みは、干潟を健康な干潟か観察しようという点が中核の活動のひとつ。何が健全であったのかを漁業者も確認できるよう漁協がつくったハンドブックがあるので活動の参考資料に活用していくと良い。(鈴木)
- ・ ただし、調査といっても漁業者のストレスになる可能性もあり、海で何かを実施する場合には漁業者が中核となり、漁業者をサポートしていく市民活動であるべき。この点も海は川とは進め方が異なる点である。(鈴木)
 - 持論であるが農地と同様に海底を耕すことが大事と考えている。耕すことでの健全さが保たれていると思う。組合へ調査等の申し出があれば可能な限り協力したい。(水野組合長)
- ・ 2月19日に東海大学のイベントにて海の観察活動や佐久島の取組みなど、実は近くで好事例があったことに大変驚いた。(高橋)

- ・ (青木) 健全だから活動が育つのか、健全でないから育つのかどうかなのだろうか。
 - (鈴木) それは地域リーダーの存在が重要。(漁業者の場合も市民団体の場合もある) 発掘、育成が遠回りの様で近道。行政は、枠を超えての活動が苦手なので、漁業者がやはり主導することが重要と思う。

- ・ 時間がなくなってきたが4つの活動については協力してやっていくという事で良いか。(青木)
 - 了解。(全員)

- ・ 最初のステップとして具体的に何をしていけばよいか。やはり、まずはゴミ調査。(青木)
 - まず既存の活動等に参加させて頂き、ゴミの状況を上流域へ情報提供していければよい。できれば、出水後の状況も見られれば良いが。(高橋)
- ・ 常時ゴミが溜まるというよりは、出水後に問題が生じた状況を漁協とも連絡を取り合いながら、まず見てみるということが良いのでは。そのため、今、いつ何をと決めるのは難しい。今後の検討課題としておくことが良い。(鈴木)

- ・ どんなゴミがどういったところに集まりやすいのか、一般ゴミについては潜在的な集まりやすさを知る必要はないか？(青木)
 - 西ノ浜は、スチロールゴミ等が集まりやすい場所で、小学校の先生がリーダーとなって子ども達と共に活動をスタートさせ、環境教育活動としても利用されている。三谷の水産高校の取り組みも西三河でも参考になる例かと思う。(石田)

- ・ 調査提案をして事務局を通じて漁協とアポを取ってもらうことで良いか。(高橋)
- ・ 先般、漁協との意見交換を実施し始めたところであり、今後も漁協と協力して活動していきたい。水野さん如何か。(事務局 宇野)
 - 了解。(水野組合長)

- ・ 健康診断のハンドブックについては、漁連に問い合わせしてみる。(鈴木)
- ・ 時期はいつとするか？(青木)
 - 知事の発表もあり、県の方でも観察会を計画中。おそらく(春から夏の大潮の時)参加者公募となると思われる。活動のタイアップの可能性を探っていく。(石田)
- ・ 仲間を増やす点については？(青木)
 - 今の方向で活動を進めて行く中で漁協との新たなつながりを増やせていけると思う。(高橋)

●議題3：干潟、ヨシ原再生

- ・ 干潟、ヨシ原再生は、国や県が頑張っている。まず活動を見てみることから

始め、自治体の取り組みとタイアップして、何が市民目線で提案して行けるか。

- ・ 市民が再生事業を行う訳にはいかないが、土砂の偏在の問題は避けて通れない問題。難しいから市民活動に入れないのか。市民目線で何が関与できるか考えていくのか、漁業者は強く要望している話題であるし、論議を進めていく必要があるのでは？守安所長（豊橋河川事務所）も見えるのでどうお考えであろうか。（鈴木）
 - 砂の問題は市民だけでできる問題ではないため、流域で考えていくことが重要なのだと思う。単に運べば良い問題ではなく、やはり状況を知ることが大切。今後、矢作川の土砂の説明会を実施する予定である。（守安所長）
- ・ ダム堆砂の問題は全国的な問題。ここで道筋つけば、全国的にもインパクト大。（鈴木）
 - 流域全体を見て、望ましい状態にしていきたい（守安所長）
- ・ 干潟はそのまま（自然）でも維持されるのか？人の手が加わる必要があるのか。（矢水協 天野）
 - 自然の状態では難しいと考えている。河口付近は特にそうである。新しい砂面でリフレッシュされることが干潟にとって大切で、手入れすることは必須。（鈴木）
- ・ できるだけ多くの砂が干潟に運ばれると良い（矢水協 天野）
- ・ 以前、矢作川河口堰で浚渫をした所が、深い水路のため稚貝が定着しない状況にあったが少しづつ砂がたまり、3～4年かけて天然ハマグリ復活も見られ始めた。矢作ダムの砂で早く浅場を作ってほしい。（水野組合長）
- ・ アサリや海苔を捕ることでチツソ・リンが海から回収される。その経費は50億程度とも試算される。そうした金銭価値からも、もっと干潟再生等へ取り組むと良い。漁業者は収入が増え、行政は税収も上がり双方にとって良い。（矢水協 天野）
 - ダムから運ぶのは瞬時のコストだが、長いスパンで見れば十分に費用対効果はある話だと考える。特区として進めても良いくらい（鈴木）
- ・ 中山水道の浚渫砂は、アサリには適さなかったが、バカ貝、ハマグリには良かった様だ。ハマグリ復活など知られていないことが多い。地元市民等へ向けての情報発信が大切。（高橋）
 - 浅場干潟造成は、大賛成。（水野組合長）
- ・ 港湾浚渫土の行き先に困っているのではないか。（矢水協 天野）
 - 港湾浚渫土は、粘土（シルト系）で干潟再生には適さない。窪地埋め等へ使いたいと考えている。（港湾）

●本日のまとめ（青木）

- ・ 4つの提案については、協力し合うことで了解。ゴミ調査は、行政と連携して進める。
- ・ 観察会も県等の協力を得て進める。土砂の問題は、勉強会等でまずは知ることから。今後、干潟の価値や海に土砂が必要ということを市民から上流に発信していくことが出来るのでは。

以上

6. 各部会の討議発表

【山部会について鳥取大学地域学部 丹羽副座長より発表】

- ・ これまで、矢作川流域を対象とした構想・組織には様々なものがあり、その中には、機能しなくなったものや形骸化したものなどもある中で、それらの組織と矢作川流域圏懇談会がどのように連携し、活性化に向けた検討をしていけるかが重要という意見があった。
- ・ 水源である根羽村などでは、森林組合の方から木を使って欲しいんだという意見を受け、活動団体では、木育や山作りに取り組んでいるが、そのような活動を他部会の方々に見せていくことを通じて、上下流連携を実現していきたいという意見があった。
- ・ この懇談会ではどうしても矢作川本流に意識しがちだが、支川の乙川や巴川など、それぞれの流域毎に暮らしがあるということを意識する必要がある。
- ・ 森と地域・人の二つの視点からみると、現在までに過疎化が進んでいるなか、将来的に集落単位での居住者や店舗がどのようになっていくかという、集落の将来ビジョンを明らかにして、それらをつないでいくことが重要という意見もあった。
- ・ 市民提案に対して協力連携できる事に関連し、今後の進め方としては、月に一度、ワーキングを開催することとした。ワーキングは、個人・団体・役所等も含めて、基本的に、有志メンバーから構成されるものとした。
- ・ 提案の中にあつた具体的な取り組み方針について、「人の担い手の事例集」、「森づくりのガイドライン」、「森づくりのモニタリング」については、ワーキングで検討していく。
- ・ 事例集については既に他地域で行われている事例として、「流域再生調査」があり、山の人や川あるいは川部会の人のところへ調査に行き、川の人へ対面調査を行うことで、悩みや特徴的な点について意見交換していくことがよいという意見があった。さらに、それらの情報をデータベースとして蓄積し、流域内のネットワークを形成することが重要という意見があった。
- ・ 流域ネットワークへの参加にあたっては、行政や各団体が少しずつ金銭的な負担をしながら資金を拠出していくことも考えられるとの意見もあった。
- ・ 今後は、山部会として、縦断的、横断的にみんながつながる仕組みを、ワーキンググループが中心になって形成に向けた検討を行い、例えば、根羽村から川下までのエクスカッションの実施を通じ、地域の現状を見聞きし、議論を重ねることで、具体的な取り組みである3つの取り組みについて、誰がどのように関わっていくかを検討していく。
- ・ ワーキンググループは、個人、団体、行政がそれぞれ、参加したくなる或いは参加することが大変有意義になるようなものとするので部会で一致した。

【川部会について愛知工業大学工学部都市環境デザイン学科 内田副座長より発表】

- ・ 川部会では先ず3つのモデル地区を挙げて、取り組んでいくことを確認した。
- ・ 市民が提案した事項について、行政の側からできる事として、例えば、愛知県水地盤

環境課からは、「西三河地域の水循環の再生のための地域協議会」という組織を作っているため、そのような組織と連携していくことも考えられるとの意見があった。また、安城市からは、下水道整備に伴い水循環が変化するという問題の解決を目的に連携していきたいというような申し出があった。

- これらの問題を含め、他の問題も共通していえることは、根本的な問題の解決は非常に困難な面もあるので、すぐにできることと長期的に解決を図る必要があるものの、両方を考えながらやっていく必要があるという意見もあった。
- 来年度は、事務局の方で企画・予定している土砂管理に関する勉強会を、是非充実したものにさせていただいて、川、山、海部会それぞれの連携を考える機会にしたいと考えている。そのうえで、勉強会では、川部会がテーマとしている、「魚が棲みやすい川づくり」の面から、土砂移動と魚をはじめとする生物の生息場所等を絡めて考えていきたい。
- 川部会として当面、3つのモデル地区について、例えば、地区毎に市民、関係団体、行政からなるワーキンググループを組織化して、現場見学と議論の場を通じて、具体的な取り組みを進めていきたい。
- 次回の地域部会の開催にあたっては、取り組み・活動に一定の目途がたつ可能性のある来年度の秋頃に地域部会を開くことがよいという意見があり、川部会としても、そのような認識で取り組んでいくこととした。なお、地域部会の開催にあたっては、必ずしも3部会合同ということでもなくともよいという意見もあった。

【海部会について名城大学大学院総合学術研究科 鈴木副座長より発表】

- 海部会の市民提案として挙げられた4つの提案について、基本的には、この提案を具体化していくために努力しようということで一致した。
- 一つ目の「干潟・水辺の清掃活動」については、流域全体の繋がりを確認できる典型例であるため、先ず取り組みたいという意見があった。
- 取り組みのタイミングとしては、例えば、台風等の大雨の通過時など、ゴミが大量に打ち上げられるような時期が望ましく、事務局と関係漁協の皆様と連携して、そのような実態について把握していきたいといった意見があった。
- 「海のゴミの問題」については、三河湾全体、場合によっては伊勢湾との兼ね合いもあるため、広域的な問題をどう捉えるかが重要で、例えば国土交通省の短波レーダーによる三河湾全体の流れ、表面の流れをモニタリングする様な設備を活用させていただき、矢作川由来のゴミがどのような海域に拡がっているかについて知ることが重要という意見があった。
- 「干潟の生きもの観察」については、愛知県から情報提供のあった「干潟の観察会」とタイアップ・連携するなどして、子供達を含めて、干潟の重要性にふれ合う機会を作るといった意見があった。
- 干潟の観察については、「全国漁業協同組合連合会」でわかりやすいハンドブックを作成しているため、そのようなものを取り込んで、一般の方たちが干潟の健全性を判断するための材料として利用したらどうかという意見も出た。

- ・ 「アクセス向上」については基本的に、海で活動している漁業者の方々との連携を進める必要がある。これについては、西三河漁協の方々より、異論がない旨をお伝えいただいたので、今後も漁民と市民が一体となった連携事例として、一層検討を進めていきたいということになった。
- ・ 「干潟・ヨシ原の再生」については、市民団体の活動だけで取り組み可能な問題ではない。特に大きな問題は川・ダム・それから流域に堆砂している土砂は、海域での利用について切望している状況である。そのため、例えばダムの砂と川が発生する土砂の海域への有効利用というものを積極的に検討してもらおうということで行政の役割も極めて重要という意見があった。
- ・ この点については、土砂管理に関する勉強会などで論議を深めていきたいという意見があった。

9. 閉会

以上